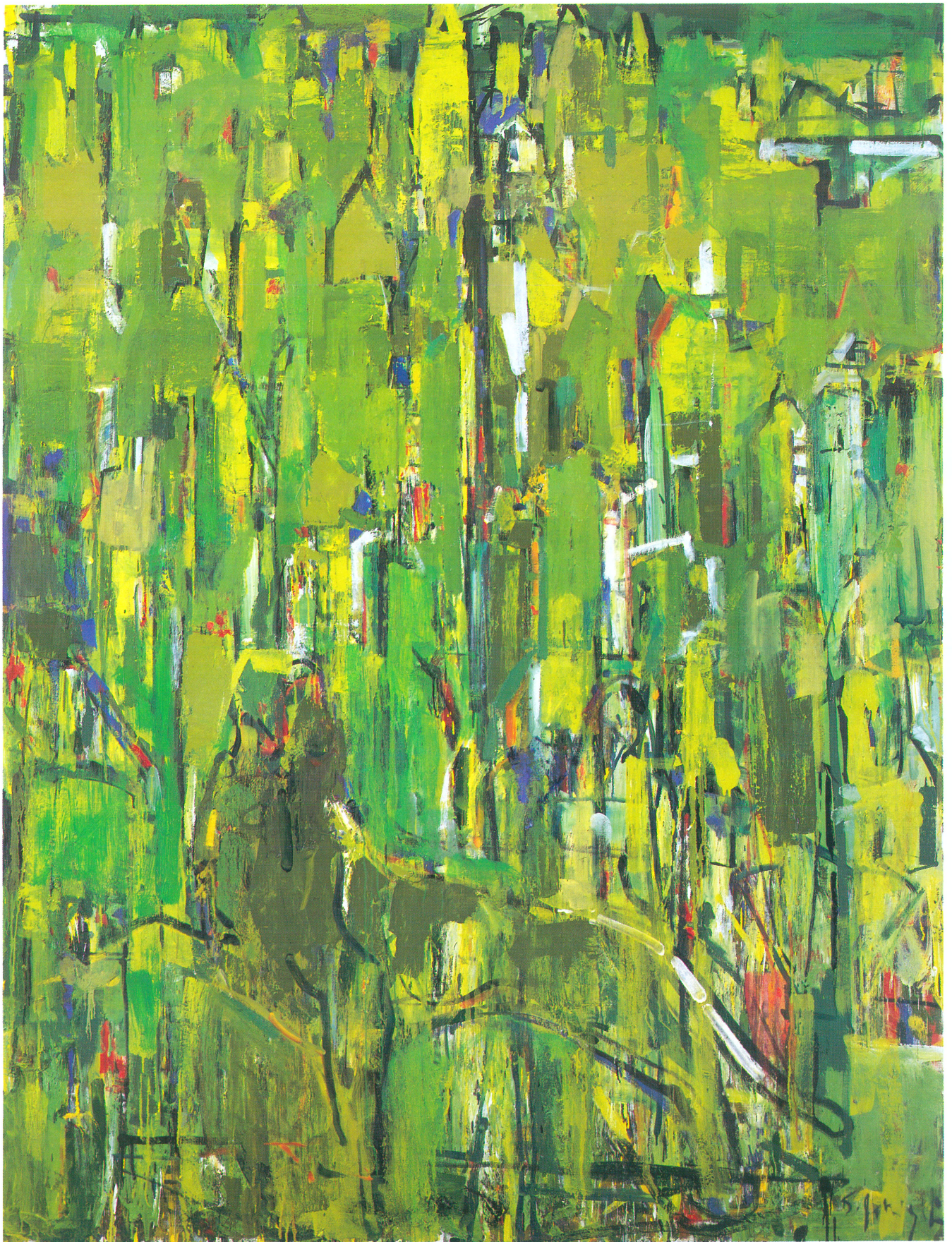


SADAYA ISHIGAKI



《Dog with Manhattan》 1994年

石垣定哉展

1995年4月29日(土)～5月14日(日)

開館時間＝午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)ただし金曜日・土曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)
初日開館＝午前11時/休館日＝5月1日(月)、8日(月)、9日(火)

《入場無料》

主催＝刈谷市・刈谷市教育委員会・中日新聞社 後援＝愛知県教育委員会

〔ミュージアムコンサート〕(入場無料)

1995年4月29日(土) 午前11時40分から

会場 美術館2階ロビー/出演者 林 峰男(チェロ演奏家)

〔公開座談会〕《聴講無料》

1995年4月30日(日) 午後2時から

会場 美術館2階研修室/出席者 石垣定哉・米倉 守(美術評論家)

野田弘志(画家)・司会 当館学芸員

KARIYA CITY ART MUSEUM

刈谷市
美術館

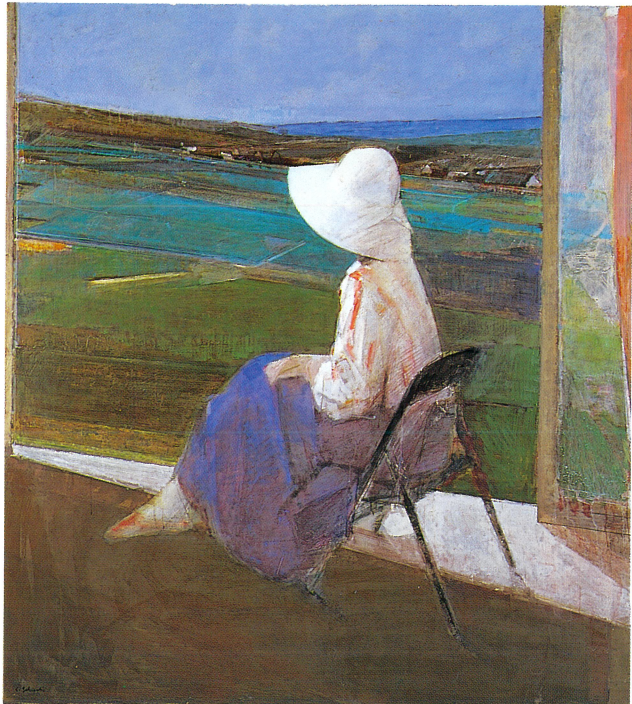
〒448 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地

Tel. 0566-23-1636 Fax. 0566-26-0511

石垣定哉展

石垣定哉

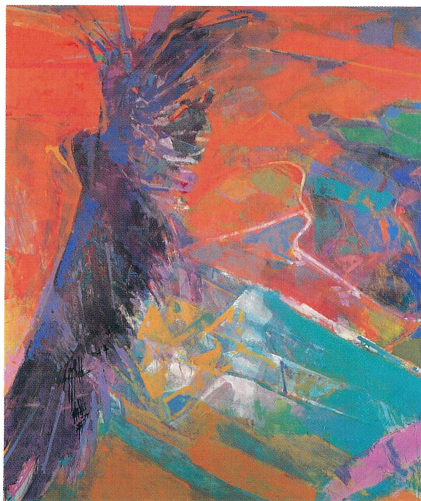
1995年4月29日(土)～5月14日(日) 刈谷市美術館



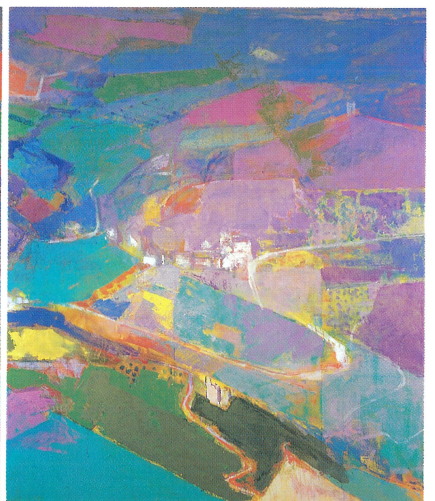
《窓辺》1982年



《黄麦のフェンテドウス》1986年



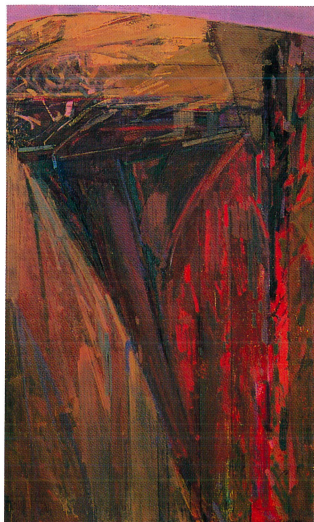
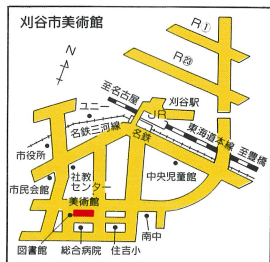
《アンダルシアの鳥》1987年



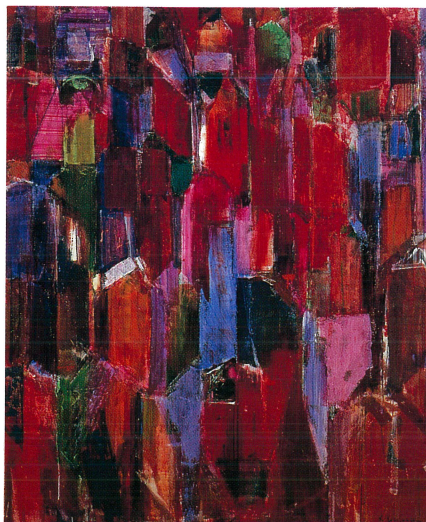
刈谷市美術館

■所在地
〒448 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地
TEL.0566-23-1636 FAX.0566-26-0511

■交通案内
駐車場に限りがありますので、
JR東海道本線・名鉄三河線
(「刈谷駅」下車、南口から徒歩7分)を
ご利用ください。



《山肌》1990年



《ニューヨーク、昼》1993年



《朝陽(クライスラービル)》1993年
笠間日動美術館蔵

現代における絵画表現の可能性をひたむきに追求しつづける画家、石垣定哉氏の展覧会を開催いたします。

石垣氏は、昭和22年(1947)三重県に生まれ、昭和41年(1966)愛知県立芸術大学油画科に入学。小磯良平、笠井誠一教室で学びました。昭和45年(1970)卒業後、白日会第49回展に初出品し、中日賞を受賞。翌第50年記念展では文部大臣奨励賞を受賞するなど、白日会を舞台に画家としての一歩を踏み出しました。この頃、抑えた色調で静物や人物をこまやかに描きました。

昭和50年(1975)自らがめざす絵画世界を求めニューヨークへ渡り、プラット・インスティテュート大学版画科に留学。シウルレアリスム調の人物や風景、繊細な点と線からなる分割描法など、さまざまな作風に取り組み自己の世界を模索しました。

帰国後、故郷・員弁にひろがる田畑風景や多度山、藤原岳などの身近な風景に眼を向け、自然の姿をやわらかな色彩で風物を塗り込めるように詩心ある生命力にあふれた筆致で表現しました。

昭和61年(1986)第21回昭展会で昭展会賞を受賞、同年の白日会第62回展では内閣総理大臣賞を受賞し、ますますその評価を高めました。この年渡欧し、南仏やスペイン、イタリア、シシリーを訪れ、しだいに色彩の強く冴えた画風をつくりだしました。

そして、近年。画家にとって第2の故郷ともいえる思い出の地、その心を魅了してやまないモチーフ、ニューヨークが登場します。パーク・アベニューやブルックリンの下町、マンハッタンを彩るエンパイア・ステート・ビルやフライスラー・ビルなど。一刻もとどまることのないエネルギーに満ちた都市の素顔を、ステンドグラスのように澄んだ輝きにみちた色彩で象徴的に描き出しています。それは、「ひとつの色面、それもそれぞれの色彩を混ぜることのない色の面で描いた」彼自身が体感したニューヨークそのものなのです。昨年、ニューヨークのフォース・マガジン・ギャラリーで初の本格的な海外個展を開催し、海外にもその活躍の場をひろげています。

本展は、白日会展に出品をはじめた頃の作品から、新作のニューヨーク・シリーズにいたる油彩を中心に水彩を含めた100余点により、石垣絵画の多彩な世界を紹介いたします。